

コーヒー摂取で女性の結腸がんリスク低下の可能性～日本の研究から

コーヒーには生物活性化化合物が多く含まれており、抗発がん性効果が期待されているが、大腸がんとの関連については不明である。また、大腸の部位によってさまざまな病因があるにもかかわらず、部位別に検討した研究はほとんどない。本研究では、日本の8つのコホート研究をもとにコーヒーと大腸がんとの関連について検討した。

日本人 320,322 例を対象に、4,503,276 人年追跡したところ、6,711 例に大腸がんが発症した。解析の結果、男女ともにコーヒーの摂取と大腸がんリスクに実質的な関連はみられなかった（統合ハザード比：男性 0.92、女性 0.90）。部位別では、1日3杯以上コーヒーを飲む女性で結腸がんリスクが低下した（統合ハザード比：0.80）が、男性ではこのような関連はみられなかった。直腸がんについては男女ともコーヒー摂取によるリスク低下はみられなかった。非喫煙者においても、頻回のコーヒー摂取によって直腸がんリスクが上昇したこと以外は、同様の結果であった。

したがって、日本人女性においては1日3杯以上のコーヒー摂取で結腸がんリスクが低下する可能性が示唆された。

出典：International Journal of Cancer. 2018 Feb 15; doi: 10.1002/ijc.31320.